



第134号

平成27年3月1日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
山崎滋夫
(株)昭和堂

大島分校が問いかけるもの



玉園同窓会 理事 中川 幸久

みなさんは猶興館高校大島分校をご存じでしょうか。

平成24年3月に六十有余年の長い歴史に幕を降ろした学校ですが、私は縁あって、平成18年から19年の2年間を校長として務めました。学校は、平戸港から船で50分ほど離れた土的土大島という小さな島にありました。

当時、この島の人口は1500人くらいで、主な基幹産業は漁業と農業でした。

学校は小高い丘の上であり、遠くに度島や壱岐などの島々が望めます。

生徒数は、私がいた頃は3学年で60名程度でしょうか。「小さいけれど日本一」のスローガンのもと、生徒たちはみな元気で生き生きと生きていました。廊下で会っても、立ち止まって気持ちのよいあいさつをしてくれます。

掃除も一生懸命です。生徒数が少ないので、一つの教室を2、3人で行います。大変ですが、誰一人さぼったりする者はいないので、それぞれに自分の役割を果たしていました。

ところで、もう一つ、私が感心させられたことがあります。校内で長年続いている無人販売です。職員室前の廊下には、文房具をおいた陳列棚があり、棚の上にはお金を入れる缶が無造作に置いてありました。

生徒たちはノート120円、消しゴム50円、鉛筆、……と、思い思いに自分の必要な物を買って、自分で代金を缶の中に入れるのです。おつりも各自で精算します。放課後、生徒会がその日の収支を計算しますが、驚くことに、開設以来それが一回たりとも合わないことが無いというのです。街中の学校では、とても考えられないことではないでしょうか。

生徒たちはノート120円、消しゴム50円、鉛筆、……と、思い思いに自分の必要な物を買って、自分で代金を缶の中に入れるのです。おつりも各自で精算します。放課後、生徒会がその日の収支を計算しますが、驚くことに、開設以来それが一回たりとも合わないことが無いというのです。街中の学校では、とても考えられないことではないでしょうか。

だから生徒たちは気持ちのよい挨拶も交わしますし、自分が与えられた仕事もきちんとこなします。また、校内の無人販売のように誰も見ていなくても不正をしないのです。そうした事が自然と身についていくのです。

主題 確かな学力の定着を図る
指導の在り方

「君の夢 はばたけ今 ながさきから」をスローガンにかかげた、第69回長崎がんばらば国体が、大きな夢と感動を残して幕を閉じました。なかでも、青少年のすばらしい活躍は、競技はもとよりおもてなしに至るまで、長崎県民に大いなる元気と希望を残してくれました。

一方、他に目を向けると、佐世保高事件、全国学力テスト、そしていじめ・不登校の増加が話題になり、教育関係者はもとより県民の社会問題になっていきます。

特に、佐世保高事件は、駿ちゃん事件・大久保小事件以来、10年間、官民が一体となって取り組んできた「命の教育」の在り方に大きな波紋を投げかけました。

また、全国学力テストに関しても、確かな学力の定着に向けて取り組んできた指導に黄信号が灯された現状です。

そして、いじめ・不登校の問題に関しても、ゆゆしき現状が報告されています。

これらの問題に対して、玉園同窓会もこれまで何回となく研修に取り組み、その一端を発信してきましたが、再度研修に取り組みなければならぬと考えました。

そこで、まず全国学力テストの問題を取り上げ、標記の主題を設定し、研修に取り組みたいと考えました。

命の教育に関しては、地域の健全育成に取り組んでおられる一般の方による特別寄稿という形で意見をいただき、研修を深めたいと考えました。

学校の取り組み、提言をもとに、今、わたしたちが抱えている長崎県の教育問題解決にわずかでも寄与できるよう、研修を深めていきたいと考えます。

学力向上のモデルとして

長崎大学教育学部附属小学校長 安部 和隆



一 はじめに

本校では、全教科等における問題解決的な学習をベースにした授業を大切にしている。そのため、同学年会等では、どのような授業を行うことが、子どもの学力を保障することにつながるかという構えで、授業展開や学期末の力試し作成等について話し合いを重ねている。特に、小中連携し合同研究発表会を行う今年度は、自分の考えを根拠や理由を含めて書くこと。そして、その考えを協働による学習の場で開き合いながら、より深めていく学び合いに力を入れている。

二 授業での取り組み
○ 子どもの学び方は定着しつつあるが、一部の子どもの意見や疑問を取り上げた展開になりがちである。そのため、今一度、一人ひとりを大切にしたい授業を検証しな

ければと考える。発問を吟味し、多様な子どもの考えを引き出しながら、授業内容が深まる展開にしたい。また、そのための資料・教材の工夫を行うことで、思考力・判断力・表現力の育成に努める。
○ 授業中の教師や友だちの話を、子どもたち全員が聞いているか、教師は全員を見て話しているかを、再確認しながら授業することで、学級全員の学力保証につなげる。
○ 教師が、子どもをもっと信頼すること。そのために、子どもを待つこと、子ども同士が学び合う場面を増やすことで、子ども自身が主体的に学ぶ態度を伸ばす。

三 学力調査の課題を受けて
○ 国語

「主語述語を明確にしながら文を読む」「二文を一文にする」「制限字数内でまとめる」の事柄については、日々の国語科を中心とした全授業の中で取り上げながら積み上げていくようにしている。

○ 算数

「言葉・数・式・表・グラフを用いて説明する」という点において、普段の授業の中で必ず取り入

れるようにしている。その際、個人グループで学級という段階を踏み、一人ひとりにその力が定着するように意識して取り組んでいる。

四 その他取り組み

○ 定着タイム
週三回、国語と算数の基礎基本の定着のための時間を朝から十五分間確保している。各学年、年間を通して計画的にプリント等を作成したり計算・漢字ドリルを活用したりして取り組んでいる。

○ 家庭学習
家庭学習については、宿題と自主学習の両立を奨励している。特に自主学習については活用力と自己マネジメント力をはぐくむ観点から保護者にも協力を求め、学びの定着と習慣化につなげている。

五 おわりに
10月末、本校で県主催の授業研究会が開かれた。多くの県内中学校教員や指導主事等が国語・算数・ICT機器を活用した授業を参観され、活発な協議会となった。参観者からは児童の積極的な発言や教師の姿勢等にお褒めの言葉をいただいた。その他、県教育センター「学力向上教材事例」も活用することで児童は、学力を伸ばしている。今後も、県教育委員会をはじめ大学や関係機関と連携しながら、地域のモデルとして恥ずかしくないよう切磋琢磨していきたい。

本校の実践を発表する機会をいただき感謝いたします。長与町立高田中学校は、本年度の生徒数は243名です。すべての生徒に確かな学力を定着させるべく、いくつかの取り組みをおこなっています。今回はその中から昨年度の三つの実践についてご紹介いたします。

確かな学力の定着を図る指導の在り方



長与町立高田中学校長 金 崎 良 一

「書く力」を向上させることを目標として、全職員で実践的研究に取り組みました。「視写」は、その中の一つです。視写の方法から説明します。時間の設定は、全校一斉に朝の5分間を利用しました。視写とは、課題として与えられた文章を見て書き写す取り組みです。昨年度課題とした文章は、

長崎新聞「水や空」でした。5分間で写しとる文字数の目標は200字としました。この実践により生徒の筆速は格段に向上しました。このことは、板書や授業中のメモの書き取りなどに良い影響を与えています。「書く」時間の短縮は、「話す」「聞く」「考える」時間の増加と授業の質の向上につながっていると考えます。

学力向上実践のプレゼン

学校にはすぐれた授業や指導力をもっている先生がいます。その実践発表を校内研修で実施しました。中学校の場合、教科の専門性のため、教科の壁を越えて、それぞれの実践を共有することはそう多くありません。しかし、他教科でも学力向上に向けたヒントになる実践も多くあります。そこで、NRT検査を一年間で20ポイント以上向上させた社会科教諭に毎回の授業で使用している自作ワークシートの作り方について、また、放課後に補充学習を頻繁に行うことにより、学習に遅れ気味な生徒

の学力を保障している数学科教諭による「補充学習の実践」についてプレゼンを実施しました。他の教職員にとっては大いに参考になったと思います。

宿題に関する統一事項

授業だけでは、学力の定着や向上は実現できません。全国学力・学習状況調査においてもそのことが読み取れる集計結果があります。本校では、国語・社会・数学・理科・英語の教科は、毎日宿題を出すようにしています。宿題は、すべての生徒が一教科あたり30分以内に終わることができるよう内容にしています。この宿題により、家庭学習が必ず行われるようになります。

さまざまな実践に取り組んでいますが、学習の成果は、学習意欲と教育環境に大きく影響されると思います。本校の生徒の中には、知的好奇心が高い生徒が比較的多く、意欲的に学習に取り組んでいます。本校の教職員は、子どもたちのためにすべての教育活動に前向きに取り組んでいます。また、多くの保護者や地域の方々、学校の教育方針に理解を示し、惜しみなく支援をいただいています。さらに、長与町教育委員会のバックアップも強力です。平成27年度20年目を迎える高田中学校が、

開校以来積み上げてきた財産であると捉えています。これらの財産の上に、今後もより良い教育実践

を積み上げるべく努力していきたくと思っています。

教育について思うこと

「共育・郷育・響育のチカラ」



諫早市教育委員 秀島 はるみ

から教えていただいた言葉ですが、子どもの成長に寄り添いながら、親も子ども共に育つ「共育」の言葉として、いつも私の心の中にあります。

家庭は、こどもの居場所であり、一番の応援団はお父さん、お母さんです。常に子どもたちに温かい眼差しを注ぎながら、子どもの心に寄り添う教育を進めていきたいと思っています。

「郷育」

インターネット等で距離や地域を超えた情報が簡単に手に入る現代ですが、だからこそ、地域の「育てる力」を高める必要があると考えています。そういう意味で、他者と自身を見つめ、深めていく学びの場として、PTA活動に取り組んで来ました。PTAというのは、同じ世代の子どもを持つ親の

集まりです。頑張っていると評価されたり、紹介されたりする組織もありますが、小さな組織にも関わらず、その学校や地域にしかない「育てる力」を活かし、大きな成果として目には見えなくても「学校を考える大切な集まり」として機能している「郷育」の場がまだまだたくさんあります。

保護者と先生は「車の両輪」です。両方とも向かっている方向・目的は一緒のはずですし、どちらが欠けても前に進む事はできません。後輪には地域や行政など支える人たちがいます。

「生きる力」とは様々な困難に出会った時、自分でよく考え人と上手にコミュニケーションを図りながら解決していく力です。かつては、子どもの周りにたくさん大人の「生きる力」がいて子どもたちの「生きるための知恵」を直接伝えてくれていました。現代は、家族を取り巻く「多様な人間関係」というクッション材がなくなり、外部に剥き出しに晒されている状態であり、多様な価値観・生き方を知らないまま閉鎖的な家庭の中で育つ子どもが増えています。国際比較の統計でも、日本の子どもは居場所がなく孤独と生きていて自己肯定感が低いとされています。悩みが吐き出せない子どもは体を壊すか、心

を痛めるか、切れるかの3つの選択肢しかないそうです。誰しも、自分を分かって欲しいと願っている、様々な場面で必ずサインを出している筈です。そのサインを見逃さず「気づく目」を持つことが大切ではないでしょうか。

「響育」

私のライフワークといえる活動の一つに、図書ボランティアがあります。子どもたちにとって読書で得る「疑似体験」や言葉を使ったコミュニケーションは、とても大切なものです。感情が言葉と結びつく事が大事で、怒りや悲しみなどの不快な感情もきちんと伝えられてこそ、相手との関係性も上手く育まれます。「読む力は生きる力」とも言われますが、本を通して「生きる力」を受け取る、そんな出逢いの機会を繋ぎたいという思いで続けている活動です。本を通じて心を響き合わせる、そんな「響育」の場として、今後も大切にしていきたいと思っています。

「出合いに感謝 少しずつでも

その一歩がありがとうの恩返し」そんな思いでこれからも親育ちのお手伝いをしていきたいと思っています。

私は、子ども3人を育てながら、長くPTA活動に携わる中で、県や市の教育委員として、教育行政にも関わる機会をいただきました。そんな中で、教育について、気づいたこと、心がけてきたことなどを思いつくままに書き綴ってみました。

「共育」

「赤ん坊の時には 肌を離すな
幼児の時には 手を離すな
子どもの時には 目を離すな
少年の時には 心を離すな」
これは、PTAの先輩役員さん

わたしの教育実践

続けていること

長崎市立戸石小学校 山本 麻祐子



教員になって12年目となります。今までたくさんの方や子どもたちと出会い、多くのことを学んできました。そして、私には自分の中でこだわりをもって実践を続けていることがいくつかあります。一つ目は、児童理解に努めることです。初任の時に「問題行動をする子どもの背景にあるものをよく見なさい。したことは悪でもその理由は悪ではないことが多いもの。」と、ある先生が話してくれました。子どもたちを叱る時も喧嘩を仲裁する時も子どもたちの話をじっくり聴き、何がいけなかったのかを一緒に考えることを大切にしています。しかし、これを怠って問題が解決しなかったり、子どもとの信頼関係が崩れたりすると、児童理解の大切さを痛感します。

二つ目は、毎朝黒板に子どもたちへメッセージを書くことです。朝、教室に来た子どもたちを喜ばせたいという思いと、私とその子どもたちと頑張りてほしいことを伝えるために始め、12年間続けています。三つ目は、週に一度発行している手書きの通信です。パソコンが苦手だということもあるのですが、イラストを描くことが好きだし、レイアウトや文字の書き方などを工夫して、自分らしい通信ができるので手書きを続けています。保護者の方に「手書きの通信は温かくていいですね。」と言われた時は、とても嬉しくなります。最後は、冬でも半袖で体育の授業をすることです。初任の時「子どもと共にある教師であれ。」と、同僚の先生から叱られたことがあります。その先生は冬でも子どもたちと同じ半袖短パンで体育をされています。真冬の半袖は正直辛いですが、周りの先生方からは「もう若くないとやけん風邪ひくよ。」と心配されますが、できるうちは続けていこうと、子どもたちと一緒に半袖で頑張りていきます。大したことではないかもしれませんが、「思い」をもって実践し続けていることが、自分の自信となり力となつていっていると思います。これからも、子どもたちのため、自分の教師力を高めるために、学び、実践を続け、成長し続ける教師でありたいです。

人の役に立つ

佐世保市立大久保小学校 林田 亮



「人の役に立つ」
今、私が最も大切にしている言葉であり、思いである。

今年度初めに、校長先生から、「人の役に立つ子ども育成」という重点目標が提示された。大久保小学校5年目の私にとって、その目標はなぜか心に伝わり、「私自身ももっと役に立ちたい」という思いを抱くようになった。日々の教育活動の中、様々な企画や運営に携わりながら感じたことは、自分以外の先生方の協力がいかに大きいものかということであった。すべての先生方が、細かな配慮や子どもたちへの指導など、共有した目標に向け、自分にできることを最大限に行っていた。先輩の先生方のような姿勢、視点は、中堅教員の私にとって、「もっと役に立ちたい」という思いをさらに強いものにしてくれた。

今、子どもたちは、滅多に見ることができない雪ではしゃぎ、笑顔でいっぱいである。目の前の子どもたちを、今一度見つめ直してみると、一人ひとりの成長を間近で共有できた喜びで心が温まり、冬の寒さも和らいでくる。しかし同時に、私自身の学級経営や授業での数多くの反省が頭をかすめ、再び身を震わせることになる。

「この子どもたちの将来のため、人の役に立つ心と行動力を育てたい。」そう決意を新たにしたいところである。誰かの役に立とうとする心の高さ、相手に大事にされたことへの喜びや感謝、自分もそうありたいと願う憧れや向上心など、「人の役に立つ」というありふれた言葉の中の深い価値を、私は確かに実感することができた。本当に自信をもって子どもたちに伝えたいこととして、いつまでも大切にしていきたい。そして、私が出会うすべての子どもたちに、人の役に立つ心と行動力を育むことができ、教師としての力を、身につけていけるよう努力していきたい。

部活動の指導を通して

西海市立西海中学校 川口 正幸



保健体育科の教員になって10数年が経った。運動が好きで、バレーボール競技に熱中していた学生時代から、今のこの姿は決まった運命だったのかもしれない。

学校現場では、部活動の指導は多くの教員にとって過重な負担を強いていることは間違いないものと感じている。勤務時間のこと、指導方法のこと、競技の専門性、保護者との関係、勝利至上主義等々、列挙するときにきりがなし。確かに自分自身も現在の学校に赴任するまでは、それらの問題を実感していた。ただ、現在の学校において、悩みがあるとすれば部員不足ぐらいのものである。

では、なぜ問題とまらないのか。それは、誤解を恐れずに書くと「勝利することが全てである」と唯一の価値設定をしたからである。生徒・保護者・指導者・全員が同じ目標を抱いている。勝ちたいから、

生徒も保護者も指導者も、多くのことを犠牲にしながらも互いに戦っている。世間では「勝利することが全てではない」と。たしかにその通りで、スポーツには教育的な側面があることも事実である。ただ、私が言いたいのは、「過程が大事だ」「負けて得るものがある」などのスポーツの教育的側面を最初から全面に出しての指導には限界があり、それぞれに甘えが出てしまう。「勝つため」に何が必要なのか、何をしなければならぬのか、ということである。「勝つ」という一つの絶対的価値を設定し、生徒・保護者・指導者が、そのことを絶対的なものと認め、共有した時、私の中で様々な問題が解消し、全ての物事が上手く回りだした。

そのような部活動指導を続けていくと、確かに生徒も保護者も指導者も大変で、物凄く疲れる。けれども、生徒たちは、大人である私たち以上に、はるかに貪欲に成長したいと頑張れる。「大変そうだな生徒たちではなく、頑張っている生徒たち」として認め、これからも共に戦っていききたい。

甘えからの脱却

小値賀町立小値賀中学校 西牟田 あゆみ



前任校から本校に異動して1年目、教員として6年目を迎えた。今年、私は「甘えからの脱却」というテーマを掲げている。

まずは教科指導。小規模校である本校では、教科担当はもちろん私一人。今までは、諸先輩方に指導方法や課題提示等についてご助言を頂くことができていたが、今はできない。教科指導における私の指導観や信念が試されているように感じることもある。前任校ではこのような思いになったことはない。「誰かが教えてくれる」そのような甘えがあったと、今振り返ってみると思う。

次に思うのは、大規模校では、担当学級や学年のことだけ把握しておけば進んだ物事が、ここでは学校全体や地域行事までも把握しておかなければならないということとだ。4月は把握・整理しておく

べきことが多く、たくさんのメモ用紙を机上に貼っていたものだった。正直、恥ずかしい話ではあるが、前任校と今では、職員会議中の集中に雲泥の差があるのは否めず、反省しきりである。

諸先輩方からすれば私など、まだまだ新米教師である。今までも、そしてこれからも、ご助言を頂きながら精進したいという思いがある。しかし、これからは今までの以上に自分の考え・信念をしっかりと持った上で、この仕事に従事したいと強く思う。

「甘えからの脱却」とどこか受動的であった姿勢を反省し、能動的に行動していきたい。諸先輩方に頼りきりではなく、自分の足で前進し、自分で道を判断できるようになりたいたいと思う。そして、私がしていたいたように、これから共に勤務するかもしれない年下の先生方にとって、少しでも力になれるような存在になりたい。これからも自己研鑽に励み、自分のために、かかわる生徒のために、社会人として、教師として成長していきたい。

母校だより

日弁公 監 印

教育学部・大学院教育学研究科の動向

長崎大学教育学部長 藤木 卓



年度の終わりになりましたが、私の教育学部長就任に伴いまして、次の3名の先生方に副学部長をお願いいたしましたので、紹介いたします。三上次郎（研究担当副学部長、音楽専攻）、松元浩一（教務担当副学部長、英語専攻）、鈴木保巳（附属学校担当副学部長、特別支援教育）（いずれも、敬称略）。また、教育学部・大学院教

育学研究科へ平成26年4月1日付でご着任された先生方、また平成27年3月31日付で定年でご退職される先生方及び、定年前ではありましたがご退職され転出される先生方をお知らせいたします。なお、敬称は略させていただきます。

【ご着任】

前田桂子（国語専攻）、土肥大次郎（社会専攻）、鈴木章能（英語専攻）、隅田祥光（理科専攻）、牧野一穂（美術専攻）、河合史菜（保健体育専攻）、前原由喜夫（教育心理学）、立岡昌文（実務家教員）、西川崇（実務家教員）、森浩司（附属中学校、校長）

【ご退職】

柳田泰典（教育社会学）、綿巻徹（特別支援教育）、西澤昭（保健体育専攻）

【ご転出】平岡賢治（数学専攻）、寺嶋浩介（教育方法学）

ところで、教育学部では学生の教員就職率向上に向けて、プロジェクトチーム（長崎大学教育学部教員就職率向上プロジェクトチーム、3チームで3名の副学部長が各リーダーに就任）を設置して、①入学前、②入学後（前半）、③入学後（後半）、④卒業後の、4つに分けた対策を開始いたしました。①入学前では、高等学校へ出向いて直接高校生へ教職の魅力のアピールする説明会や大学で高校生対象の教職の魅力探究講座を行うこと等、教員を志望する高学生の獲得に力を入れはじめました。②入学後（前半）では、1～4年の全学生を対象に教職アドバイザリーによる個別面談をスタートいたしました。教職に関する進路や悩み、実習上の不安等、学生の多様な相談を豊富な教職経験のアドバイザーに担って頂いています。③また、教員採用試験の説明会を1年次生から行うとともに、現職教員や大学教員等による教職講話シリーズを開講して、教職への動機づけ強化を開始いたしました。④入学後（後半）では、従来から行っております教員採用試験対策特別講座（教採特講と呼んでおります）や各教育委員会等による教員採用に関する説明会に加えて、教育委員会による臨時的任用に関する説明会や教員採用試験合格者を対象とした公立学校でのインターンシップ、そして教職アドバイザリーによる個別面談等を行って、教員採用試験対策の強化を開始いたしました。なお、教採特講に關しましては、毎年、玉園同窓会からの強力なご支援をいただいております。④卒業後では、卒業生の動向調査を定期的にを行い、卒業生と大学との繋がりを保持するとともに、未就職者への情報提供等を行う予定です。なお、教職へ就いた卒業生には、

初年次教員としての悩み等に関する支援を意図した、同窓会との連携による支援策も考えられます。

また、昨年11月8日、9日の両日、「平成26年度教育実践研究フォーラムin長崎大学」を開催いたしました。これは、昨年度開催いたしました教員養成機能の充実に関するシンポジウムに続き、本

学大学院教育学研究科(教職大学院)で継続して開催しております「実践と省察のコミュニティ」と教育実践に関する研究会を兼ねて行ったものです。「教育実践研究における連携の在り方を探る」をテーマに、文部科学省の森次郎氏(高等教育局大学振興課教員養成企画室長補佐)の基調講演とシンポジウム、そして2日目は分野や領域を問わず少人数のグループで教育実践研究に関する話題を報告し合い聞き合う、ラウンドテーブルを行いました。このような実践型教員養成推進に向けた内容に

より、約180名の参加を得て、盛会裏に終了しました。

このように、教育学部・大学院教育学研究科ともに、社会の変化や求められる課題に即応した学生支援や教育研究活動に邁進しております。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

ここまでか・な

人間発達講座(教育社会学)

教授 柳田 泰典



かわせみがダイブする大学、それが長崎大学なのだ。エメラルド色のかわせみが、環境科学部や教育学部中庭の池に飛び込む。絶滅危惧種の紅糸とんぼが舞い、めだ

かが泳ぎ、オタマジャクシが群れる。こんな大学はほかにはない。大げさに言えば、長崎大学は自然の中、森の中の大学である。

満開のさくらが春を告げ、楠のてんこ盛りの緑が夏空を覆い尽くす。路傍には、歩行の邪魔をしているかのようにつつじやアジサイが雨と戯れ揺れる。誰が植えたのか、その思いに答えるかのように、

から30年が過ぎた。現在、教師の学級指導メッセージを研究しているが、最初のきっかけは、長崎人の不思議な会話だったと思う。「テレビ消すやつ取って(私：リモコンだろう)」「そげんするからこげんなると(私：何のことだかわからん)」「先生：セン・セイと短音で発音する(私：え段長音だからセン・セーだよ)」などなど。

メタセコイア、ワシントンヤシ、ヒマラヤ杉、榎木、銀杏、ユーカリ、ばくちの木などが傍若無人に、そして、この自然さらにはこの大

調べて分かったこと。教師は叱りすぎる。しかも過剰な演技さえしている。問題は「人格指導によって行為を形成しようとしている」こと、その対極には「行為指導によって人格形成する」ことも可能だが研究として社会的に認知されていない。私自身は当然面白い研究だと思っているが、博士課程がないので継続や後継は無理だろう。残念。誰か、遅くない日に博士課程ができるよう仕掛けて下さい。ここまでです。

温かいと思っただのに長崎の冬は「暗い、寒い、雪が降る」。北海道と一緒に文句を言いなが

地域の子どもは地域で育てる



小江原中学校区育成協
会長 里見 浩則

『子どもは地域の宝、手を携えて
地域全体で子どもを育てよう』
この方針のもと、活動を進めて
います。

育もう地域の“わ”



小江原中学校区青少年育成協議
会では、今年も恒例のデイキャン
プを開催しました。雨続きだった
夏、最後の快晴の日でした。

小江原小、桜が丘小、手熊小の
子どもたちと、地域の皆さんとの
交流の場にもなり、今回も事故も
なく怪我もなく、楽しい一日を過
ごすことができました。
ご協力頂いた地域の皆様にご感
謝致します。

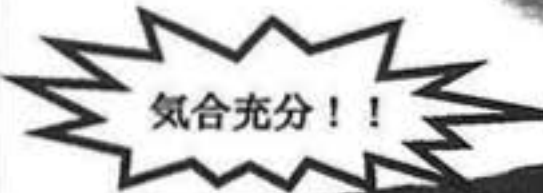
交流 デイキャンプ



in 柿泊



はい、ちーず！！



気合充分！！



めっちゃうまかあ



美味しいお肉と
おにぎりで大満
足！！



焼くのは おやじの会



当たった！？

動つてつまも同窓会

一般社団法人として、新たに出発した玉園同窓会も初年度を終わりました。本年度は、「長崎大学教育学部をはじめ関係団体と連携し、会員相互の親睦・資質向上を図り、もって教育の振興に寄与する」ことを目的に、年度当初の計画にしたがい諸事業を展開してきました。「動いています同窓会」の取り組みの状況について、報告いたします。ただし、会報(133号・134号)でお知らせしている事業は省略させていただきます。会員の皆様の御協力に感謝いたします。

●総務部会

第1回総務部会を、8月29日に開きました。

総務部から、野田・迎の各部員、事務局からは、山崎会長・濱崎事務局長・担当の野中が出席しました。

主な内容は、玉園同窓会財産(基金)運用等について検討しました。第2回総務部会を、9月10日に開きました。

総務部から、野田・迎の各部員、事務局から、山崎会長・濱崎事務局長・担当の野中が出席しました。主な内容は、基金会計の法人処理方法等について検討しました。

●教育・研修部

本年度も、26年度の教育学部の学生(特別会員)に対する就職支援事業を実施しました。教育・研修部の宮地・木村・仲・野田・上野の各部員と会長でお世話をしました。

計画にしたがい、5月中旬から九月中旬まで、アドバイザー事業を行いました。受験生に対する心構えや面接に向けての心構え等、受験対策について支援活動です。

次に、一次合格者を対象とした支援活動を実施しました。8月上旬から9月上旬の約四週間行いました。まず、関東・関西地区受験者を対象に、次に長崎県・九州地区受験者を対象に行いました。内容として、面接の受け方や小論文の書き方・模擬授業等について支援活動を行いました。

●広報部

第1回広報部会

・日時 5月13日
・出席者 山崎・大隈・中島・渡邊・原の各広報部員、事務局から小川会長・濱崎事務局長・担当の尾崎

・内容 26年度の会報「たまぞの」の編集方針及び作成計画、会報「たまぞの」(133号)の編集計画や作業日程について

の「たまぞの」の編集方針及び作成計画、会報「たまぞの」(133号)の編集計画や作業日程について

第2回広報部会

・日時 9月9日
・内容 広報部員による一次校正を行う

第3回広報部会

・日時 9月30日
・内容 全会員宛、会報発送

第4回広報部会

・日時 10月21日
・出席者 大隈・中島・渡邊・原・安部の各広報部員、事務局から山崎会長・濱崎事務局長・担当の尾崎

・内容 会報「たまぞの」(134号)の作成日程、内容構成、主題、そして執筆者について検討

第5回広報部会

・日時 1月27日
・内容 広報部員による一次校正を行う

第6回広報委員会

・日時 2月24日
・内容 会報発送・本年度の反省

・日時 2月24日

・内容 関係の支部長さんをはじめ、執筆いただきました会員の皆様には、心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

関係の支部長さんをはじめ、執筆いただきました会員の皆様には、心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

お知らせ

「長崎大学全学同窓会」開催される
「長崎大学ホームカミングデー」

本年度も「長崎大学全学同窓会」(第6回長崎大学ホームカミングデー)が、平成26年11月8日(出)、長崎大学文教キャンパスにおいて開催されました。

各学部から、多くの会員の方の参加がありました。我が玉園同窓会からは、40名の参加がありました。

今回は、御案内のとおり、講師に、水産庁 漁政部加工流通課 課長補佐である「上田勝政」氏を招いての講演でした。上田氏は、長崎大学水産学部の卒業生で、NHKの「あさイチ」や「キッチンが走る」等で、トークと料理で魚の魅力伝える魚食の伝道師として全国を飛び回っている、長崎大学の同窓生です。

今回の講演でも、「魚食は国づくり」であると、300種類の魚介類に恵まれて暮らしているわたしたちです、「魚を食べて国づくりに貢献しましょう。」と、情熱的に話しておられました。

講演会の後は、希望者による懇親会で盛り上がりしました。青春時代を謳歌した母校に集い、旧友との再会を喜び合い、さらに絆を深めた一日となりました。

玉園同窓会さんへ

たくさんの本 ありがとう

公益目的事業
図書購入費助成



対馬市立 今里小学校

玉園文庫の皆さん、今里小学校に10万円を寄付していただき、ありがとうございます。

私は、図書委員会の委員長です。玉園の本を見てみると、自分で想像する世界が広く、「予想外の行動をとる」という事が一方的でした。まだ一冊しか読んでいないのでたくさん読みたいと思います。

藤 栞里

今里小学校にたくさんのお本をありがとうございます。

私は、これまであまり本を読んではなかったのですが、これからはたくさん本を読みたいと思います。私が好きなのは、「かいけつゾロリシリーズ」が好きです。初めて読みましたが、結構熱中して読んでいます。ゾロリがめいたんていになって事件を解決していく時がとってもおもしろかったです。全部初めて読む本なので全て読んでみたいと思います。

井 愛花



長崎市立 戸石小学校

戸石小学校におもしろ本や感動の本や歴史の本をありがとうございます。好きでいつも読ませてもらってます。豊臣秀吉の本が一番好きで、この本を読んで豊臣秀吉のことがもっと好きになりました。新しいコーナーのはいっもなくなっています。「この本すごくおもしろい」と読んでみたい」とみんなが言っていました。感動する本は今でも心に残っています。おもしろい本と歴史の本は今かりています。これからも玉園さんの本をいっぱい読みます。これから大切に使います。本当にありがとうございます。

力永 直哉

私たちにいろいろ本をたくさん送っていただきありがとうございます。はとでもおもしろく、本を読むことがきらいだった私が玉園さんのおかげで本を読む時間がふえました。私が最近読んでいた本は、小説の恋に恋する本です。小説は文字が小さくて長いけれど、私は一行読むとずつと読んでしまします。ときには、家で1時間ほど読んでいます。家でもありました。私は、玉園さんからの本をいつももらっています。これからの本をいつもよろしくおねがいします。本当にありがとうございます。

岸川 なつみ

長崎市立 丸尾中学校

この度は、長崎市立丸尾中学校に「ポプラディア情報館」を寄贈頂き、誠に有難うございました。

私達は、日々、勉強に取り組み、毎日頑張っています。特に、調べ物をしたり、レポートを書くときなどに、ポプラディアや図鑑を見ることがあります。とても、参考になって便利です。そんな、私達が毎日重宝しているものを寄贈して頂き、誠に嬉しい限りです。

本は、知らないことを教えてくれたり、大切なことを教えてくれたりします。私達が使っている図書室は、学校の憩いの場所であり、生徒の憩いの場所でもあります。生徒達が集まるのは、一つの理由として、大切なこと、学びたいことを知ることが出来る。そんな意味があると思います。

いくら本が古くても、調べたりしやすいことには変わりはありません。私達は、その大事な本をいつまでも残していきたい、次の世代へ伝えるよう努力したいと思っております。勉強の面でも、日々、精進していきたいと思っております。

本当に有難うございました。

宮下 歩七

図書購入費助成の募集

一般社団法人長崎大学玉園同窓会は、長崎県内をはじめとする教育振興に寄与することを目的として活動を行っています。

そこで、その目的を達成するための事業として、「長崎県公立の小学校・中学校、高等学校・特別支援学校、私立の小学校・中学校・高等学校」を対象に、図書購入費の助成を行っています。本年度も下記の要領で募集を行う予定です。

- 1 助成校 小学校 3校
中学校 2校
高校 1校
特別支援学校 1校
- 2 助成金額 1校につき10万円程度
- 3 募集期間 平成27年3月9日(月)～5月29日(金)
- 4 応募先 長崎大学玉園同窓会
〒850-0029 長崎市八百屋町36番地
(長崎県教育会館内)

電話 095-824-5494

- 5 応募手続き ①応募希望の学校は、電話で、長崎大学玉園同窓会へ連絡する
②応募した学校へ「募集要項」を送付する
③学校は、希望図書名・出版社名・冊数等を記入して応募する
④選考後決定通知を応募した学校に通知する

お礼状

盛夏の候、貴職におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

本校の図書館は、昭和中期に「芋図書館」と呼ばれた地域の浄財による図書購入の歴史があり、平成15年度には、図書館教育分野で文部大臣表彰を受けたりなど歴史を持っています。現在でも、週四日の朝の読書活動をはじめ、「本野つ子 よむっこ100」運動や図書ボランティアによる朝の読み聞かせ、季節に応じた壁面装飾作りなどによって子どもの読書活動を推進しているところであります。しかしながら、児童数の減少に伴い、図書ボランティア活動等も厳しい状況にあります。

そのような折、貴同窓会の図書購入助成を知り、応募させていただきましたところ、貴重な多くの図書を寄贈していただきました。誠にありがとうございました。誠にありがとうございました。新たに購入させていただいた図書を活用しながら、子どもたちが豊かな心を育む貴重な財産となるよう読書活動を推進してまいります。

最後になりましたが、本校教育への変わらぬ御支援と貴職をはじめ貴同窓会の今後益々の御発展を祈念いたしました。お礼の御挨拶に代えさせていただきます。

諫早市立本野小学校
校長 濱崎 彰

一事一務一局より

ともに 終身会員として
年度末の定期異動により、御勇退される同窓会員の皆様、永きにわたり長崎県教育界のために御尽力され、本当に御苦勞様でした。本同窓会では、退職後も終身会員として、終身にわたり、本会の進展に寄与していただけたらと願っています。

- (1) 入会金 5000円(終身にわたって、会報を送付します)
- (2) 振込用紙は、事務局へ連絡してください。すぐお届けいたします。

地区懇話会開催中止について
表記の件について説明いたします。開催の準備(会員への案内・発表者の選定・会場の選定等)は完了していただのですが、お世話していただく地区長様の突然の事情が生じ、本年度開催は中止することになりました。しかし、本懇話会は同窓会のメイン事業でもありますので、27年度は改めて計画し、実施する予定です。
どうか、この事情をご理解いただき今後ともご協力をお願いいたします。